

真夏の

オルガンコンサート

オールバッハ名曲選!!

All BACH 2025

ORGAN CONCERT

J.S.バッハ

トッカータとフーガニ短調 BWV565

オルガン協奏曲ニ短調 BWV596より 第3楽章

管弦楽組曲 第3番ニ長調 BWV1068より「G線上のアリア」

フーガト短調「小フーガ」 BWV578

コラール「目覚めよと呼ぶ声あり」 BWV645

コラール「われいずこに逃れ行かん」 BWV646

パッサカリアとフーガハ短調 BWV582 ほか

※休憩なし。約60分間のコンサートです。

北の国からの贈り物

札幌コンサートホールKitara×ザ・シンフォニーホール
共同公演

【オルガン】 ファニー・クソー
(第25代札幌コンサートホール Kitara 専属オルガニスト)

2025 8/2 (土) 14:00開演 (13:00開場)
全席指定 2,750円(税込)

ザ・シンフォニーホール
主催：ザ・シンフォニーホール

ご予約・お問合せ ■ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(火曜定休) <https://www.symphonyhall.jp>

プレイガイド

■e+(イープラス) <https://eplus.jp/symphonyhall/> (パソコン・携帯)
■ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonyhall/> [Lコード:56471]
■チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonyhall/> [Pコード:286-403]

詳しい内容はこちら▶



*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

ALL BACH!! オールバッハ名曲選!! 真夏のオルガンコンサート 2025

ザ・シンフォニーホールの人気シリーズ「真夏のオルガンコンサート」。2025年に登場するのは、2024年9月に第25代札幌コンサートホール専属オルガニストに就任したフランス出身のファニー・クソーだ。オリヴィエ・メシアン国際コンクールで第4位を受賞。演奏にとどまらず、教育にも力を注ぎ、オルガン音楽の裾野を広げるべく精力的に活動している。

ザ・シンフォニーホール初登場のクソーが贈る「オールバッハ名曲選」。J.S.バッハのオルガン曲は、ドラマティックで即興的な表現を特徴とする北ドイツ楽派の影響を受けている。プログラムには、「G線上のアリア」や「目覚めよと呼ぶ声あり」など彼の名曲が並ぶ。フランスのオルガン界の俊英が、バッハの音楽を鮮やかに奏でてくれるに違いない。

道下京子



© Hiroharu Takeda

第25代札幌コンサートホール Kitara 専属オルガニスト

[オルガン]

ファニー・クソー

Fanny Cousseau, Organ

親愛なる皆さまへ

2025年8月2日、私はザ・シンフォニーホールでオールバッハ作品のオルガンリサイタルを行います。このコンサートでは、「トッカータとフーガニ短調 BWV565」や「目覚めよと呼ぶ声あり BWV645」など、バッハの代表的な作品を中心にお聴きいただきます。このプログラムが、皆さまにとってバッハの名曲をより深く探求するきっかけになれば幸いです。ザ・シンフォニーホールの3,732本のパイプを持つクーン社製オルガンを演奏できることを楽しみにしています。皆さまのご来場をお待ちしています。

Fanny

フランス生まれ。パリ13区モーリス・ラヴェル音楽院にてピアノをカリーヌ・ザリフィアンに、伴奏法をクロード・コレに師事し、パリ地方音楽院ではオルガンを学び、いずれも音楽研究資格を取得。サン・モール・デ・フォッセ地方音楽院ではピアノをクリストフ・ブクジャン、オルガンをエリック・ルブランに師事し、2017年、最優秀の成績で修了。リヨン国立高等音楽院ではフランソワ・エスピナス、リズベズ・シュルンベルジェに師事し、19年、オリヴィエ・メシアン国際コンクールで第4位及びオリヴィエ・メシアン作品最優秀演奏賞を受賞。その後、リヨン国立高等音楽院で22年にオルガン修士、24年に教授法修士課程を修了。

教育活動にも熱心で、パリ13区モーリス・ラヴェル音楽院ではオルガンを、フランス・ハンガリー音楽学校ではピアノを指導している。

現在は、ポール・ロワイヤル教会の正オルガニスト及びポール・ロワイヤル・ミュージカルの音楽監督を務めている。2024年9月、第25代札幌コンサートホール専属オルガニストに就任。

幻想的な世界が広がる ザ・シンフォニーホールのパイプオルガン

ザ・シンフォニーホールの舞台正面に厳かに佇むパイプオルガンは「本格的なコンサートホールには、ヨーロッパの伝統的なパイプオルガンが欠かせない」という強い思いのもと、スイスの名門オルガンビルダー「クーン社」によって生み出されました。透明感のある明瞭な音の特徴で、3,732本のパイプから成り、3段の手鍵盤と低いパイプを鳴らす足鍵盤、音色を調整する54のストップがあります。オルガニストの感性、音楽解釈によって、様々な音色が組み合わせられていきます。残響2秒というクラシック音楽にとって最適といわれるザ・シンフォニーホールの豊かな響きの中に広がるパイプオルガンの音色は、まるで巨大な楽器の中にいるかのような壮大で幻想的な世界へ誘ってくれます。

